

高度保健学人材開発センターからのお知らせ

大学と自治体との協働：日本初の「地域共創群馬モデル」発信

これからの取り組み

群馬大学地域共創シンポジウム



保健・医療・介護データ

(群馬県国民健康保険団体連合会の協力)

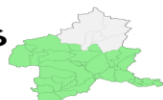
協会けんぽ
(60万人)

群馬県国保
(45万人)

広域連合
(30万人)

群馬大学

県の約7割を網羅する
極めて大規模な
保険データベース



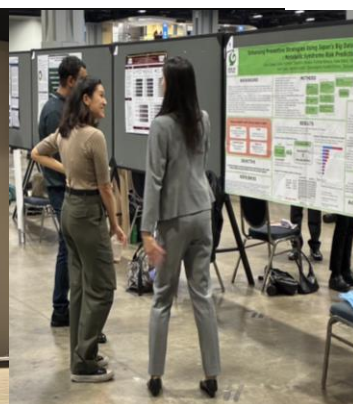
10月17日に群馬大学地域共創シンポジウムを開催。副センター長の佐藤由美教授が「群馬県と協働した保健ビッグデータ解析による健康施策の推進」を報告しました。日本総合研究所の藻谷浩介様からは、行政、保険者、大学がプロジェクトの計画、実施、評価まで一体化して実施するプロジェクトとして、**日本初の「群馬モデル」として発信を**というお言葉いただきました。



第84回日本公衆衛生学会、アメリカ公衆衛生学会（APHA 2025）でヘルスビッグデータの活用が注目されました。

保健学研究科の大川貴史助教が、10月30日、静岡県で開催された第84回日本公衆衛生学会総会のシンポジウム「公衆衛生学におけるAIや機械学習の活用」で講演。保健学研究科がこれまで取り組んできたデータ分析や行政との連携の歩みを紹介し、後半ではAI（機械学習）を活用した現場課題の解決に向けた仕組みづくりについて発表しました。会場からは他大学・自治体をはじめ多方面より大きな関心と反響が寄せられました。

大学院生も口演発表5題、ポスター発表1題を行い、大活躍しました。



第84回日本公衆衛生学会 シンポジウム

APHA ポスター 発表

群馬大学医学部保健学科及び大学院保健学研究科では、社会の課題解決を目指して、研究、教育、地域保健活動、国際保健活動に積極的に取り組んでいます。これらの活動を進めるための組織として保健学研究科附属研究・教育センターが設置され、このセンター内には5つの推進室があります。今回は高度保健学人材開発センターからの報告になります。

私たちの活動をご覧いただき、ご意見をお聞かせください。

アンケートへのご協力をお願いいたします。⇒

お問合せ先：保健学研究科長 齋藤貴之 (tsaitoh@gunma-u.ac.jp)

